

事例2：チェックリストを利用して、保育を改善する

1. 実施方法	<p>【1回目のチェック実施】</p> <p>園内研修として実施。</p> <p>(1) 職員全員にチェックリストを配布して内容を説明し、<u>1カ月後の園内研修までにチェックリストを実施しておくように伝える。</u></p> <p>(2) 園内研修で、はじめに、<u>チェックリストを行った感想やチェックしたところを話し合う。</u></p> <p>(3) それぞれが行ったチェックの<u>レーダーチャートを見ながら反省点を書く。</u>次に、<u>自らの保育の改善点を書き、発表する。</u></p> <p>〔反省点・改善点の例〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ レーダーチャートを見ても五角形ができておらず、子どもたちの立場にたったかかわりができていなかったと反省した。 ➤ 言葉をかけるときの表情や態度を見直す。 ➤ 自分の気持ちを落ち着かせ、感情的になりすぎないようにする。 <p>(4) それぞれが書いた改善点をもとに、<u>各自で、4カ月後の園内研修までの改善目標を立てる。</u></p> <p>【2回目のチェック実施】</p> <p>園内研修として実施。</p> <p>(1) チェックリストを各自で実施。その際、<u>1回目との違いが分かるよう、1回目とは異なる色のペンで記入する。</u>また、<u>振り返りシートについても、1回目との違いを中心に記述する。</u></p> <p>(2) 園内研修では、はじめに、<u>2回目のチェックを行った感想について話し合う。</u></p> <p>(3) 1回目にチェックを実施した際に立てた改善目標に関する事項を中心に、<u>改善できたところ、またできていないところを発表した。</u></p> <p>〔1回目から改善できたところの例〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ レーダーチャートで比べると、前回よりも全体的に「良いかかわり」ができていた。 ➤ カーツと興奮してしまったときに、自分で心を落ち着かせる時間が取れるようになった。 <p>〔1回目から改善できていないところの例〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 保育のなかで「怖いもの」を使って子どもたちを怖がらせることのないようにと考え、意識していたが、まだ「怖いもの」を使ってしまうことがある。 ➤ 1歳児がご飯を嫌がって席に座らないときに話しかける言葉を、もっと考えなくてはいけないと思う。
---------	---

<p>2. 実施による変化</p>	<p>【個人の変化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 言葉かけや表情等、気をつけるようになった。 ○ <u>何気なく行っていたことについて考えることができた。</u> ○ 特定の子どものみにかかわってしまって、ほかの子どもたちへのかかわりが減っていたことに気づき、<u>保育の見直し</u>ができた。 <p>【組織としての変化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ チェックリストを実施したことにより、<u>子ども一人ひとりの背景や保護者の状況に配慮することへの意識が高まった。</u>職員間で子どもの背景や保護者の状況について詳しく話し合うことができるようになり、<u>職員が同じ考えで子どもや保護者に対応することができた。</u>
<p>3. 実施者の感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ チェックリストを実施し、感じたことを発表することにより、自分のできていないところに自らで気づくことができた。誰かに言われて気づくのではないため、<u>「どうしたらいいのか」を一人ひとりが自分で考えることができるようになった。</u> ○ 職員の内面を共有することができ、やることに大変意味のある園内研修となった。 ○ 他の園にもおすすめしていきたい。